



地元住民と協力して実施する 町づくり研究所の活動を振り返って

内田 青蔵* 重村 力* 山家 京子* 曾我部 昌史*
中井 邦夫* 小幡 知之** 香山 篤美**

On Activity of the Institute for Town Planning Practice of Town Planning in Cooperation with Local People

Seizo UCHIDA* Tsutomu SHIGEMURA* Kyoko YAMAGA* Masashi SOGABE*
Kunio NAKAI* Tomoyuki OBATA** Atsumi KAYAMA**

1. プロジェクト研究の概要

町づくり研究所が、工学研究所プロジェクト研究として承認されたのは2006年からであり、今年度においてはや10年が過ぎようとしている。

ところで、この町づくり研究所を立ち上げ、精力的に活動を展開してきた中心人物が、神奈川大学名誉教授の西和夫先生である。西先生は、建築学科で建築史研究室を構え、多くの卒業生を世に送り出した。その卒業生たちが、各地で活動し始める中で、再び西研究室を訪ねる機会が増えたという。その理由の多くは、古くから伝わる建造物が取り壊される状況を変えるために、歴史的建造物を用いながら町おこしができないかという相談のためだったという。西先生は、こうしたことからOB・OGたちとともに古い建物を調査を行い、それらの価値を明らかにし、地元住民に価値を伝え、住民と一緒にそれらを活用しながら疲弊した町を活性化させる新しい町づくりの道を模索する活動を展開し始めた。そして、その活動をより本格化するために、工学研究所内に町づくり研究所を設置したのである。西先生の定年後は、代表は山家、内田が担当したが、その中であって西先生は客員教授としてより積極的に町づくりに係ってきた。しかしながら、この中心的活動を担っていた西先生が、今年2015

年1月、突然亡くなられてしまった。

そこで、本稿では町づくり研究所の研究報告に代わって、これまで西先生を中心に精力的に行われてきた町づくりの活動を簡単に振り返り、西先生の業績の一端を紹介することで、研究報告の代わりとしたい。

2. 町づくり研究の実績

西先生は、在職時代に研究室主体ですでにいくつかの町づくりに関する活動を進めていた。以下、西先生が係られた活動を見てみたい。

研究室主体で行った町づくりの代表的活動として、2000年から始められた平戸の町並み調査がある。2005年までに町並み調査が行われ、町並みを形成する建物の重要性が住民に周知され、また、建物の維持・修理のための補助制度もこの間に整えられた。また、建物の保存だけではなく、住民の生活そのものも継承すべきであるとし、年中行事やその際の料理などの調査も行い、とりわけ「おくんち」の際には町屋すべてが参加して町を演出するといった、行事の復活などにも積極的に係られた。そして、平戸の町づくりとしてかつてのオランダ商館復原にも係り、平戸の歴史的建造物所有者と町づくりを模索する人々のネットワークづくりなどにも寄与した。

この平戸の調査と並行して、2002年から島根県江津本庁の町並み調査を行っている。調査の結果、町中には貴重な歴史的建造物が点在していることが明らかになり、地元では町の保全のための活動が調査を起点に開始された。

2005年からは、長崎県と壱岐市の依頼を受け、壱岐勝

*教授 建築学科

Professor, Dept. of Architecture

**客員研究員 工学研究所

Guest Researcher, Research Institute for Engineering

本浦の町並み調査を行っている。その調査には、失われつつある建物や町並み、さらには、周辺の自然環境などの状況を把握し、新しい町づくりの資料として生かそうとする目的があった。建物の調査とともに、生活に係る重要な要素として井戸と生活の関係を分析し、また、住民の人々の生活に係るものとして祭礼や朝市なども調査し、その重要性を指摘している。

また、同じ2005年から2008年度まで岐阜県各務原市からの依頼により、各務原市の歴史的建造物の調査を行っている。その調査をもとに貴重な歴史的建造物8件17棟は、国の登録有形文化財に登録された。また、調査結果をもとに、町並みの修景事業や街道を走る水路の復原などの検討も行われており、まさしく町づくりのための成果をあげている。

一方、こうした調査に相前後し、2004年から2009年までの6年間、長野県長野市教育委員会の協力のもとで、松代町の町並み調査を行っている。調査を行ったのは95件164棟の建物で、2009年に報告書が刊行されている。この調査をもとに、松代では町づくりに関するNPOが誕生し、地域の建物や庭などの歴史的資産の見直しの活動が展開された。この活動の中で、2007年松代の「松真館」内に「神奈川大学・松代町 町づくり研究所」が開設され、調査とともに、学生と住民の交流や住民への調査報告会などが行われた。

さらに、2006年から山形市長井商工会議所と長井町づくりNPOセンターの協力を得て、長井市中央地区の歴史的建造物の調査を実施し、併せて、神奈川大学と長井NPOが共同で「町づくり研究所」を設置し、活動を行っている。また、長井も平戸と同様に様々な年中行事や祭礼がある。そこで、長井でもこうした住民活動としての祭礼や行事を重視し、町づくりに欠かせない貴重な資料として調査を行っている。

なお、西先生は、神奈川大学日本常民文化研究所の委託研究として、岐阜県高山市の町並み調査並びに景観要素の調査も行っている。この調査は2008年から2011年まで行われた。調査目的は、2005年に近隣9町村と合併した高山市が、合併して高山市に編入された高山市市街地とその周辺の関係を見直すためのもので、具体的には、農山村民家の調査と重要な歴史的景観要素として高山市の中心地域に点在する「秋葉様」と呼ばれる防火の神様を祭った小さな社の調査であった。調査から、この「秋葉様」が普段から住民によって大切に扱われていること、高山市中心地の歴史的景観要素として重要なものであることを明らかにしている。また、その後は、町づくりに直接かかわるものではないが、町づくりの核となる歴史

的建造物である高松城と小田原城の調査も行っている。

3. 結びにかえて

西先生は、ご自分が手掛けられた町づくりに関する活動内容を、2009年11月14日に神奈川大学日本常民文化研究所主催の第13回常民文化研究講座の中で詳しく紹介された。この講座は、シンポジウムと展示からなるもので、シンポジウムのタイトルは「町をつくる、人をつくる―祭礼・年中行事そして町並み」というものであった。まさしく、紹介した西先生の町づくり調査が終始一貫して行われていたことがそのまま表現されていることがわかる。すなわち、これまでの町並み調査では、町並みを構成する建物調査が主眼で、建物の調査に終始するくらいがあった。そのため、報告書も建築専門家しかわからない用語を並べたてたものが多かったのである。しかしながら、西先生の調査では、建物調査とともに、年中行事や祭礼の調査、さらには、その地域の特産物や地元の料理や地酒なども調べ、その地域ならではの生活を把握し、それを大切に継承していくことをめざしたのである。町や町並みの主役は、表に見える建物ではなく、あくまでもその建物で生活する人々であり、その人々の生活そのものが大切であるという熱い思いが込められているのである。

また、展示内容は、各地区で行った調査内容やその成果をまとめた写真パネルをもとにしたもので、2009年10月27日から11月26日まで1か月間学内で展示された。そして展示会終了後には、そのパネルをもとに調査地で巡回展が行われた。

いずれにせよ、学生と住民を巻き込んだ手法を用いた町づくり研究所の活動は、西先生の突然の逝去により、終止符を打たざるを得なくなった。ただ、それでも今後は、これまでの西先生のご遺志を継ぎながら、新たな町づくりの活動を進めたいと考えている。具体的には、もう少し新しい町や今回の災害後の町づくりといったものを対象とした活動を展開したいと考えている。これまでの町づくりにかかわる調査・研究を積極的に手掛けてきた西先生に改めて敬意を表し、ご冥福をお祈りしたい。

<参考文献>

西和夫「町をつくる、人をつくる―祭礼・年中行事そして町並み」『歴史と民族』神奈川大学日本常民文化研究所論集27 pp.127-153 平凡社 2011年。

※本稿は、上記の西先生ご自身が書かれた参考文献をもとに、簡単に西先生の町づくりに関する活動をまとめたものである。